

保育目標 心身ともに健やかで生き生きとした子ども

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自尊感情の構築	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切にしたい保育について、年2回話し合う機会を持つ。 月2回以上行う写真を使った語り合いの時に、保育者の関わり方についても振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿を肯定的に捉え、ありのままの姿を受け止める大切さを感じながら語り合うようになってきており、職員アンケートで「自尊心を育てている意識を持ち、ありのままを受け止めて愛情深くかかわっているか」の問いに肯定的な回答が90%となっている。 語り合いの中では子どもの姿や物的環境についてだけでなく、関わり方や言葉のかけ方を意識した振り返りを心がけるようにした。
	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 乳児・幼児共に写真等を使って子どもの姿の語り合いを月2回以上行う。 視点を意識した話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に資質・能力の3つの柱で読み取り、乳児は月2回以上、幼児は動画を含めて概ね2回行い、環境の再構成につなげた。 写真を使って子どもの姿を読み取る際には、視点を意識することで語り合いや共通理解を深める機会となっており、今後も継続していく。
	ちがいを認め合える仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が人権について意識し、高められるような研修を年1回行う。 人権に係る事象や機会を捉え、その都度協議する場を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体で人権研修をおこない話し合うことで職員の人権意識を高める機会となった。 一人一人の個性を受け止め、認め合う関係づくりを心がけるとともに子どもが自分の思いや意見を伝える場面を大切に關わっていく。

保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いての研修を年1回行う。 ・写真を使った子どもの姿の読み取りをクラスの枠を超えて共有していく。 ・園内の環境構成について月1回話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の講師を招いての研修や他園での研修会に参加し、子どもの姿を深く読み取る大切さを学ぶ事ができた。また、環境面は自園の保育環境に取り入れ再構成に活かすことができた。 ・情報共有は写真が主だった為、伝達や共通理解の方法を工夫して学びの共有や理解を深める話し合いを定期的におこないたい。
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや会議の前には議題やポイントを伝えて、職員が意見を持って参加できるようにする。 ・職員アンケートで、チームの一員として自分の思いが大切にされていると感じると回答した人の割合が70%になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がそれぞれの考えを発信できるよう事前に議題や要点を伝えておくことで意見をもって会議に参加するようになった。 ・乳幼児共に環境作りや遊びをチームで考えることで職員間のコミュニケーションが増え、連携や子どもの姿の共有ができるようになった。
	小学校教育との接続	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の様子を知る機会として見学の日を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は近隣の小学校や地域に出る機会を増やした。 ・研修会に参加して小学校教育や幼児教育との関連性がわかったり考えたりする機会となり、小学校教諭とのつながりができた。 ・就学児については小学校教諭と話し合いの機会を設け、保育要録を作成して引継ぎすることができた。